

- 県消費生活大学講座
- 青森県消費者大会・企業研修
- （幻の穴堰）見学
- 原子力関する意見交換会
- 元気！くらしの安全・安心展
- 資源集団回収実績

消費者の会だより

発行
 十和田市消費者の会
 十和田市西十二番町6番1号
 TEL (51) 6783
 FAX (23) 5571

コロナ禍の中での自粛活動で

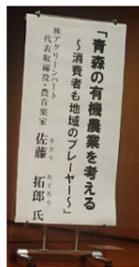
副会長 笹淵峰尚

厚生労働省は新型コロナウイルス感染症の名称を「コロナ 2019」に変更する方向で調整していることが最近報じられ時の流れとともにコロナウイルスのあり方も変化するものだと感じております。そのコロナウイルスの影響により令和4年度は5月17日に行われた総会后、活動が出来ず主だった事業は9月以降に行われるかたちとなりました。令和5年度はコロナウイルスの影響による活動自粛は軽減されると思いますので皆様こそでご参加くださいますようお願い申し上げます。

第3回県消費生活大学講座と

防災地震体験に参加して

副会長 田中榮子



今年から市のバスが利用できなくなり、参加者を限定して、米倉会員の自家用車8人乗りで参加してきました。7月27日午後からの講座でしたので、桜の広場を9時30分に出発し、浅虫の（浅めし食堂）で、早めの昼食を済ませ、会場に着きました。

乗用車の乗り降りには、コロナ対策の消毒やマスクを掛ける車中でした。大学講座は、「青森の有機農業を考える」と題して佐藤卓郎（Takuron）講師の話で、黒石市で6代目の農家をしていて、ロボット田植えやドローン播種そしてロボットコンバイン等々農業の激変振りの話が、実際行われているなど、又農林水産省が、2050年までに、日本の耕地面積の25%を有機農業に取り組む話など聞き、参加者も驚きの連続でした。機会がありましたら実際の農作業を見学したいものです。



第2の研修先の県防災教育センターにお邪魔して防災の講話を聞きました。その後参加者が地震の震度6.5の時の揺れを体験し、家の家具などの倒れ等、震災の備えに改めて考えておくことの説明を受け、貴重な体験ができました。このような研修があれば、又参加したいと思います。



【青森県消費者大会】と企業研修

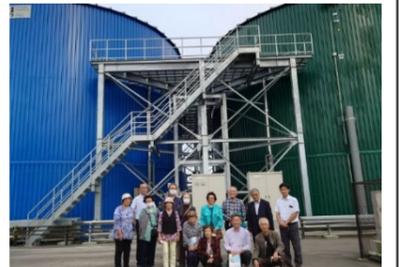
『バイオガスエネルギーとわだ』(B-GET)に参加して

理事 寺澤憲司



10月3日今回も小型バス借り上げ、私の運転で桜の広場を8時10分に出発し青森にある県民福祉プラザ会場に向かいました。会場はコロナ禍の為3年振り開催された第56回青森県消費者大会でしたがコロナ安全対策の一環として、入場者数を160名に制限しての開催でした。当十和田市消費者の会からは、12名

で参加してきました。10時から開催され沼田桃子理事長が大会挨拶をした後、基調講演【若年者・高齢者を取り巻く消費者被害】と題して、磯 裕一郎弁護士から講演があり同じ内容で青森大学の学生による寸劇で、令和4年4月1日から『成人年齢が20歳から18歳に引き下がり』に関しての内容も大変参考になりました。バスの中で昼食を取り次の企業研修先の地元十和田市にある『バイオガスエネルギーとわだ』に向かいました。工場の2階に案内され業務本部、今泉次長様から分かりやすく説明があり、その後に施設見学となり、いろいろな廃棄物（例えば、汚泥、汚水、食品生ごみ、野菜の切れ端など）を微生物の力でバイオガス化され電気と熱に生まれ変わり、又発酵残渣も肥料になって土に戻るとのことです。工場での処理は相当量が可能とのこと。凄い廃棄物処理施設が十和田市に出来たものです。非常に勉強になりました。



『幻の穴堰』見学と開拓時の

時代背景研修に参加して

会長 鈴木盛治



9月23日17人をのせ当会員寺澤理事運転の小型バスで、桜の広場を9時に出発した。幕末南部藩歴史研究家奈良哲紀講師の案内で、【十和田市の成り立ちとその歴史を見つめて】の研修が始まりました。十和田市

消費者の会の目的に、正しい知識を普及し、生産・販売・消費の公正な意思の連絡をはかるとの目的にある様に、十和田市のお米、野菜、牧畜での街づくりに関心があり、約160年前に戻って、その時代背景を見聞しながら、現存する【幻の穴堰】を見てきました。奈良講師のお話が、160年前にタイムスリップし、幕末南部藩の説明には、参加者も初めて知る事が多く、大変勉強になりました。当日は、1868年戊辰戦争で南部藩と弘前藩が、戦った『野辺地戦争』と同じ日の9月23日でもありました。一行は、野辺地町の藩境塚・常夜燈・北前船・大砲台場跡（これは、新渡戸十次郎が築いた）等、約160年前にさかのぼり、当時の説明を聞きました。その時代背景を基に、十和田市の成り立ちとなる、現存する原点の【幻の穴堰】を見学しました。穴堰の中に入ると、バンズルの跡や燭台の跡など、約160年前の実物が現存している事に一同驚くばかりでした。奈良講師の一日を研修して、いかがでしたかの最後の挨拶が、脳裏に残りました。《今日は、私達【ふるさと】を幕末の農業とそれに係る「水路」を中心に学んできました。十和田市は『水の里』『水と共に歩んだ街』が、ピッタリです。時を経て今の県内四番目の都市に生まれ変わりました。水と共にある街であることを忘れないよう、皆で心掛け未来へ子供達に伝えていかなければと思います。》の挨拶に心打られました。時間を忘れ桜の広場に到着したのは、5時をまわっていました。お疲れ様でした。



原子力に関する意見交換会に参加して

11月15日～11月16日 監事 佐々木光子

八戸市アスネットねぎし自主防災会2名と十和田市消費者の会17名で参加しました。コロナ禍の状況と原子力施設の為、参加者の施設見学前の行動履歴、体調等確認表作成など参加条件がかなり厳しく感じられました。

1、リサイクル燃料備蓄センター

使用済燃料が運ばれ再処理工場まで金属キャスクで貯蔵管理する建屋。

2、東北電力東通原子力発電所

構内を車中より見学しました、電力の安定供給の為青森県内初の原子力発電所として第1号機として営業運転開始したが2011年3月11日の東日本大震災時に定期検査中の為、発電を停止中で震災の被害が無かったが現在も停止している。



3、東通オフサイトセンター

緊急事態や複合災害発生時の国・県・市町村関係機関の対策本部として情報の収集、共有場所として設置された。

宿泊はむつ市ユニサイトむつビジネスホテルで夕食は海の幸で懇談する。

4、六ヶ所原燃PRセンター

ウラン濃縮工場・再処理工場などの原子燃料サイクル施設の役割や仕組みについて映像・模型・パネル等で紹介するセンター。



5、原子燃料サイクル施設

構内は車中から高レベル管理施設・MOX燃料工場・竜巻対策工事現場・防火帯・貯水槽・取水口など安全対策の説明。

意見交換会

国側はエネルギー政策と原子力・核燃料サイクル政策について、県は原子力に関する取り組みについての説明があった。

- 意見として
- 1, 使用済燃料の今後の搬入量について？
 - 2, 地震・津波等との複合災害への対応は？
 - 3, 地域振興対策など

再処理工場が完工するにあたり、国の新規基準に必要な案件には多くの時間がかかっても慎重な検査確認をして進めてほしいと感じた2日間でした。

「古津軽伝承料理・津軽あかつきの会」研修に参加して

理事 三浦栄子

津軽あかつきの会は、津軽の女性達が冠婚葬祭や田植えなど、ことある毎に集まり、客人をもてなしてきた手間暇かけた古き良き津軽伝統の郷土料理を伝える20代から80代の30名ほどの伝承料理の会です。県外のみならず海外からも注目される津軽あかつきの会の津軽の食文化研修に、10月9日11名で小型バスを理事の寺澤さんに運転して頂き、桜の広場を8時40分に出発しました。



途中の「弘前リンゴ公園」やアップルロードでは、真っ赤なリンゴの木が連なり、実りの季節ならではの風景を楽しみながら、工藤会長宅に着きました。副会長の森山さんから、1食1,500円を維持するために、食材を自ら確保し手間を惜しまず、油や砂糖をほとんど使わず、化学調味料も使わず、昆布、煮干しなどで出汁をとる作り方や、会の活動など話して頂きました。消費者の会員からも沢山の質問が続出しました。棒鱈の煮物、きゅうりとさらし鯨の酢味噌合せ、ねりこみ、りんごきんとんなど13品目のお料理を堪能し、今度は十和田の食文化も学んでみたいと思いました。帰路中、久しぶりの睡蓮沼に寄り、喜びながら和気あいあいの楽しい一日を過ごし、4時10分無事に着きました。



元気!くらしの安全・安心展にお手伝いして

会員 鈴木紀代子

10月16日、毎年実施している安全・安心展に、一会員として、お手伝いに参加いたしました。前々日の準備・当日・翌日の後片付けと30年近く、先輩の皆さんが、実施してきたことに感心しました。日曜日当日、古着売りのコーナーで、売り子をしていたら、若いお客様が来て、ご苦労さんですと挨拶されました。田中副会長や三浦理事が、対応していました。後で聞いたらまちづくり支援課の川村課長さんが激励に来てくれたと聞き、ビックリしました。



支援課から頂いたパンフレットを、会場に来る人達に配布したりして、消費者の会員として、お役にたったのかなーと思いました。また、新しい会員の米倉さんも、商品を出したり、片付けを手伝ってくれて、有り難いなーと思いました。私も、皆さんと一緒に参加して良かったです。

第5代竹原弘会長を偲んで

会長 鈴木盛治

令和4年11月2日ご逝去されました。

十和田市消費者の会第5代目竹原弘会長は、長年に亘り副会長8年会長を4年務め、消費者問題に多大に尽力されました。又創立50周年記念誌『歩みを進めて五十年』発刊に際して、前佐藤弘人会長と一緒に記念誌編集に奔走されました。ここに会員を代表致しまして、哀悼の意を表し謹んでご冥福をお祈りいたします。 合掌。

令和4年度 資源集団回収実績について

理事の協力の下で3回、回収作業を行いました。第1回 6月14日 協力者数18人 収入金額 12,575円・第2回 8月23日 23人 10,284円・第3回 11月22日 23人 12,214円 **合計 64人 35,073円**

※協力者数は回収者を含む人数で、合計は延べ人数となります。

(協力者26人:石谷裕子・奥義男・織笠和子・木村秀雄・工藤節子・昆國雄・桜田節子・佐々木光子・佐々木ユコ・佐藤清・佐藤トミ・佐藤鈴子・白坂暁子・鈴木紀代子・鈴木盛治・竹林栄子・田嶋敏子・田中榮子・寺澤憲司・中川原きぬ・馬場三和子・馬場ヨシエ・冬部君子・三浦栄子・和田ヒロ子・古館宏佳)

尚会員からの要望が多数あり**3月18日(土)に第4回目の資源集団回収**を行いますので協力できる方は事務局に連絡していただくようお願いいたします。
沢山のご協力に感謝申し上げます。

編集後記

令和4年度の事業計画は、コロナ禍の為、下期に行事が集中して、会員の皆様もコロナを気にしながらのご協力ありがとうございました。紙面を通じて、事業計画実施の内容を理解して頂ければ幸いです。 編集委員一同

